

プログラム名：「豊かで安全な社会と新しいバイオものづくりを  
実現する人工細胞リアクタ」

PM名： 野地博行

プロジェクト名：基盤技術開発

委 託 研 究 開 発

実 施 状 況 報 告 書 (成 果)

平成 27 年度

研究開発課題名：

人工細胞デバイスおよび計測システム開発

研究開発機関名：

東京大学

研究開発責任者

田端 和仁

# I 当該年度における計画と成果

## 1. 当該年度の担当研究開発課題の目標と計画

H27年3月から開始した当該年度の本課題の目的は、研究環境整備を迅速に実施し、デバイスの作成や計測機器類の開発環境を整えることにある。デバイス作成環境としては、工学部3号館地下の009B室内にイエロールームの設置工事と微細加工装置類（ドラフト、純水装置等）を導入し、立ち上げを行う。計測環境としては、009C室内に計測用暗室の設置と顕微鏡類の導入を行う計画である。また、これら研究環境整備は7月頃まで継続する予定である。

## 2. 当該年度の担当研究開発課題の進捗状況と成果

### 2-1 進捗状況

おおむね上記の通り、必要な装置類の手配、環境整備を実施した。一部の物品導入（顕微鏡）や工事が遅れたため、翌年度初頭の実施となった。

### 2-2 成果

必要な機器類および工事の手配を完了した。デバイス作成環境であるイエロールームの設置工事と微細加工装置類の導入は、予定通り行われ、各機器の調整を開始していることから、来年度からの技術補佐員のトレーニングや研究開始が可能となった。また、計測環境としては、暗室の設置が完了し、こちらは、来年度初頭に顕微鏡類が導入され次第、技術補佐員のトレーニング等を開始する予定である。

### 2-3 新たな課題など

特になし。

## 3. アウトリーチ活動報告

特になし。